

和の心、着物をたのしむ

日本には和装を楽しむための約束事や作法があります。
「きもの教室けいこ日和」の小宮山啓子さんは、
着物を通じて和の心や美しさを伝え、
魅力ある着物文化を普及しています。



柄で味わう、着物の粋

帯の柄や格式で選ぶ着物は変わります。
帯×着物のコーディネートを楽しむ方を紹介します。

モダン

ショパンの楽譜がモチーフの帯。無地に近い着物に合わせると映えます。古典柄を合わせると、ちぐはぐな印象になってしまうため注意が必要。カジュアルな帯なので、普段使いの着物に合わせて。海外でも人気の一本です。



フォーマル

嫁ぎ先の義母が色留袖用に誂えたもの。古典的で緻密な柄が美しい帯です。格式の高い訪問着にも合わせることができます。帯に入っている色から選ぶと合わせやすいです。淡い色に合わせると若々しく、濃い色では落ち着いた印象になります。

刺繍

同系色で刺繍が入っているシンプルな帯です。派手な柄の着物に合わせると、互いが映えるでしょう。無地の着物に合わせると大人しくなりすぎるので、古典柄から洋風まで、大胆なコーディネートがおすすめです。



アンティーク

鮮やかな色の着物でも、黒地の帯が全体の雰囲気をぐっと締めてくれます。大正ロマン風な大きな柄の着物に合わせるとかっこいい印象に。若い人が古典柄の着物に合わせて着こなすとギャップを楽しめます。



民族衣装文化普及協会がマナー研修会を開催。教室で学ぶ生徒たちに和装での美しい所作を伝えています

「けいこ日和」を開きました。
約3分の音楽に合わせて、長襦袢(じゆばん)を着た状態から留袖や振袖を自身で着上げる技術も伝えられています。小宮山さんは留袖を着上げる「華の舞」が専門で、多くのショーに出演。「特に振袖は、通常は人に着付けてもらうものですが、自分でも着られることを若い人に知ってもらいたいので、専門のメンバーがショーで披露しています」と若年層へのアピールも欠かしません。「着物はリズムで着るもの。身体感覚が肝心です。私たちの協会では最小限の道具や小物を使い、手数少く着付けます。手早

着物を守ることは 伝統や歴史を守ること

小宮山さんが所属する民族衣装文化普及協会では、和装でスポーツイベントに参加する活動をしています。

加する活動をしています。一昨年はラグビーW杯の全試合で、ゲストをアテンドし大会に華を添えました。幅広い層にアピールするため、積極的に多分野との交流を図っています。小宮山さんは、1991年に東京で開催された世界陸上競技選手権大会にフィリッドキャストとして和装で参加。自国の民族

く、無駄なく、美しく着ることができると、小宮山さん。「学びながら教え、教えながら学ぶ」をモットーに、講師として毎月研修会を開き、自己流に陥らないよう研鑽を積んでいます。

特別な行事で着物を着た経験から、着物は息苦しいものと思いがち。小宮山さんは「着物は、紐の位置や絞め方のコツを掴めば、着物でも快適に長時間過ごせるそう。和装でビュッフェなどに行くこともあります。辛い体験で偏見を持たれないよう、また着てみたいと思ってもらえる着付けを心がけています」。

衣装でのおもてなしが、海外のゲストに非常に喜ばれることを実感したと言います。
着物は長きにわたり、形を変えず伝えられてきたもの。また「親子三代」と言われるように、家族の思い出と共に、代々引き継がれていくものです。着付け技術だけでなく、日本人が大切にしてきた心と共に、後世に伝えていきたいとの強い思いが小宮山さんにはあります。「襟を正す」「折り目正しく」など、和装に由来する言葉もあるように、着物を着ると背筋が伸びて、気持ちに張りが出ます。体が包まれることで動きが制約されるからこそ、立ち居振舞いも美しくなります。着物を守ることには地域の伝統や歴史を守ることにもつながります」と着物文化の重要性を語りました。

鏡を見ずに自分で着付けできるように

「きもの教室けいこ日和」は、着付けや着こなすとともに美しい立ち居振舞いや日本の伝統文化を学べる教室です。初心者でも24回のカリキュラムを経て、鏡を見ずに15分で着付けできるまでを目指します。

子どもの入学式や卒業式に着物で参列したい、娘の成人式に振袖を自分で着せたい、茶道をしているので自分で着られるようになりたいなど、和装を学ぶきっかけはさまざまです。自身で着られるようになると、音楽鑑賞や歌舞伎や能の観劇、友人とのランチなどに和装で気軽に出かけることが多くなると小宮山さんは言います。

現在は学業に専念中ですが、中学生のころから通っている若い生徒もいます。「おばあさまの着物を自分で着られるようになりたい」と、熱心に通ってくれていました。若い人は



きもの教室けいこ日和
小宮山啓子さん

一般財団法人民族衣装文化普及協会特別認定講師。きもの着装技術紙一級、王朝奥許し自宅で着付け教室を開くほか、名古屋市内の教室や専門学校で講師を務める。「次代に着物や日本文化を継承する人を育てていきたいです」



さまざまなイベントに和装で参加する生徒たち。イベントによって装いの変化を楽しんでいます

若い人を知ってほしい 自分で着る着物の魅力

いつも和装だった祖母の姿を見て、自然に着物に魅かれていった小宮山さん。祖母が仕立ててくれた七五三の着物は、今も大切にしています。結婚を機に、着付け教室に通い始め、資格を取得。専門学校の講師などを経て、2003年「きもの教室



けいこ日和

レッスン日:
第1月、木 / 第2火、水、木
第3水、木 / 第4水、木
レッスン時間:
10:00~12:00 / 13:00~15:00 / 18:30~20:30

不定期で土日のお稽古もあります。
体験、入会、随時受付中
(無料体験レッスンは事前予約制)

詳しい情報はP.8へ!